

令和4年度（2022年度）

管理事業名	道路事業			総合計画 の体系	大綱 6 都市形成	
					政策 2 安全・快適な都市を支える基盤づくり	
					施策 1 道路などの整備	
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 8 土木費	(項) 2 道路橋梁費	(目) 3 道路新設改良費		
部局名	土木部	予算執行 所属	道路室 地域整備推進室 総務交通室			
事業の目的と概要 【目的】道路事業では、新設道路の整備や既存道路の改良、維持管理及び修繕等を行っている。これら道路の整備及び適正管理等により、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備を目指す。 【概要】主な業務内容は次のとおりである。 ・道路の維持に係る事務 市道の機能及び構造の保持を目的に、巡回、清掃、剪定等を実施している。 ・道路の修繕に係る事務 市道の当初の状態への回復や付加的な機能及び構造の強化を目的に、補修工事等を実施している。 ・道路の改築に係る事務 市道の効用、機能等を現状より良くすることを目的にバリアフリー化の改良工事等を実施している。 ・都市計画道路の整備に係る事務 都市計画道路千里丘朝日が丘線（千里丘工区）の新設事業を実施している。						

I 成果指標（活動指標）

指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	指標の定義
交通バリアフリー道路特定事業の整備率	%	76.6	81.8	90.8	整備済延長／計画延長
舗装の更新計画に対する更新率（新規計画）	%	-	-	20.1	舗装の更新延長／計画延長 （令和3年度で計画が完了し、令和2年度に行った路面性状調査結果をもとに令和4年度から新規計画となる。）
都市計画道路の整備率	%	93.0	93.0	93.0	完成延長／都市計画決定延長

II 活動実績・成果

<p>【活動実績】 令和4年度に計画していた道路新設改良事業（バリアフリー道路特定事業）については、穂波芳野線ほか5路線において予定通り完了した。</p> <p>令和4年度に計画していた橋梁新設改良事業（橋梁補修等）については、五月が丘東一号橋ほか4橋において予定通り完了した。</p> <p>市管理の道路施設の保守点検、清掃、補修、小規模改良、安全対策等を実施し適切な維持を行った。</p> <p>都市計画道路千里丘朝日が丘線（千里丘工区）の整備に向けた用地取得や道路構造物の予備設計等を実施するとともに、都市計画道路残地の処分及び所管換えを実施した。</p> <p>【成果指標】 バリアフリー道路特定事業の進捗率は、穂波芳野線ほか5路線のバリアフリー化実施により、90.8%となり、前年度と比較し9.0%上昇した。</p> <p>路線道路舗装については、路面性状調査によって把握した劣化損傷状態に基づき、南吹田67号線ほか12路線において、舗装工事を実施した。</p> <p>都市計画道路整備については計画検討や設計を実施している段階であり、都市計画道路の整備率の進捗はなかった。</p>	<p>【財務情報に基づいた評価】 貸借対照表ではインフラ資産土地において、道路の寄附や帰属等による道路用地の所管が増えたため昨年度比約0.3%増となっている。また、インフラ資産工作物においては、道路の寄附や帰属等があったものの、管理している道路施設の減価償却費が上回ったため、昨年度比約2.7%減となった。</p> <p>キャッシュ・フロー収支差額集計表では、投資活動支出において、道路新設改良事業における工事請負費の増加があったため、前年度比約64%の増となっている。投資活動収入においても道路新設改良事業における資産となる工事に対する国府支出金の増加があったため、前年度比約39%の増となっている。また、主に道路や道路附属物等の維持補修費にあたる行政サービス活動支出については、昨年度比約7.4%増となった。</p>
--	--

III 課題と今後の取組

<p>道路事業は、新規道路の整備、既設道路の維持補修工事のほか、多くのインフラ施設の経常的な維持管理経費、老朽化が進む施設の修繕、補修工事に係る経費が主な支出となる。</p> <p>開発行為などにより、年々新設道路が増加する一方で、施設老朽化比率は上昇傾向にあり、その比率は市保有施設全体よりも高く、また道路の管理延長も増加している。施設老朽化比率が高い現状においては、維持補修費を増やし事故防止や苦情・要望に対応することも必要であるが、道路の新設以外に既存道路の更新・改修などの投資活動としての支出の増加がより求め</p>	<p>られ、また道路としての利用実態に応じて、売却等が可能な資産については、調査・検討の上で処分を行うことを考える必要がある。この他、道路周辺のみどり豊かな環境づくりも重要事項であると考えており、街路樹の剪定等、これらにかかる物件費の確保も必須である。物件費削減は、吹田市全体のブランドイメージの低下につながる。維持補修費に限らず、物件費の適切な執行及び予算確保もまた本事業における課題の一つであり、本事業において国庫補助金等、他の財源についても確保できるよう、情報収集に努めることが必要であると考えている。</p>
--	--

IV 財務情報

◆貸借対照表【BS】

(単位:千円)

勘定科目	令和3年度末 A	令和4年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和3年度末 A	令和4年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	514,271	546,379	32,109
未収金	-	-	-	地方債	478,877	506,746	27,869
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	32,405	36,644	4,239
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	2,990	2,990	-
有形固定資産	3,604,835	3,338,503	△266,333	その他流動負債	-	-	-
土地	1,074,363	1,073,298	△1,065	固定負債	4,085,063	4,055,402	△29,661
建物・工作物	2,329,414	2,250,429	△78,984	地方債	3,747,136	3,720,990	△26,146
リース資産	11,958	8,969	△2,990	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	189,100	5,806	△183,294	退職手当引当金	328,958	328,433	△525
無形固定資産	911	840	△71	リース債務	8,969	5,979	△2,990
有形固定資産	838,364,519	839,752,884	1,388,365	その他固定負債	-	-	-
土地	787,219,009	789,906,983	2,687,975	負債の部合計	4,599,334	4,601,782	2,448
建物・工作物	51,044,299	49,680,675	△1,363,624	純資産	837,374,227	838,492,810	1,118,583
建設仮勘定	101,211	165,226	64,015				
重要物品	3,296	2,364	△931				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	837,374,227	838,492,810	1,118,583
その他債権	-	-	-	負債及び純資産の部合計	841,973,561	843,094,592	1,121,031
資産の部合計	841,973,561	843,094,592	1,121,031				

◆行政コスト計算書【PL】

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	376,461	369,704	366,994	△2,710
国庫支出金(経常費用充当)	46,200	16,639	22,980	6,341
府支出金(経常費用充当)	5,363	4,950	1,815	△3,135
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	1,379,871	6,375,099	84,689	△6,290,410
経常収入 小計(a)	1,807,894	6,766,392	476,478	△6,289,914
給与関係費	452,004	461,603	456,933	△4,670
物件費	841,458	728,058	763,348	35,290
維持補修費	384,063	339,882	440,643	100,761
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	14,291	8,273	1,331	△6,942
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	2,616,217	2,269,407	3,115,820	846,413
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	36,581	32,405	36,644	4,239
退職手当引当金繰入額	△7,181	27,348	28,561	1,213
支払利息	24,517	22,369	20,982	△1,387
その他	59,329	183,214	-	△183,214
経常費用 小計(b)	4,421,278	4,072,559	4,864,261	791,703
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△2,613,384	2,693,833	△4,387,784	△7,081,617
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	5,482,919	1,238,476	3,483,027	2,244,551
特別収入 小計(d)	5,482,919	1,238,476	3,483,027	2,244,551
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	2,414	-	△2,414
その他	-	44,671	164,013	119,342
特別費用 小計(e)	-	47,085	164,013	116,928
特別収支差額(d)-(e)=(f)	5,482,919	1,191,391	3,319,014	2,127,623
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	2,869,535	3,885,224	△1,068,770	△4,953,994
一般財源充当額	1,886,213	1,821,230	2,162,594	341,364
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	4,755,748	5,706,454	1,093,824	△4,612,630

財務諸表の特微的な事項

勘定科目等	特微的な事項
【BS】事業用資産 土地	用地処分及び用途廃止に伴う所管換による減。1,065千円の減
【BS】インフラ資産 土地	寄附及び帰属等による道路用地の増と普通財産への所管換えによる減。差引2,687,975千円の増
【BS】インフラ資産 工作物	寄附、帰属及び改良工事による増と減価償却等による減。差引1,363,624千円の減
【PL】使用料及び 手数料	道路占用料 366,210千円ほか
【CF】投資活動支出	穂波芳野線道路改良工事(その1) 90,548千円ほか

単位当たりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」÷「実績」)

単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市民1人あたり のコスト	11,729円	10,752円	12,759円
実績	376,944人	378,781人	381,238人
市道1mあたり のコスト	8,214円	7,508円	8,927円
実績	538,268m	542,436m	544,900m

分析内容

- ・市民1人あたり 12,759円のコストがかかっている。令和5年3月31日現在の吹田市人口で算出している。
- ・市道1mあたり 8,927円のコストがかかっている。令和4年4月1日調製の道路延長で算出している。

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表【CF】

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	768,433	459,489	445,401	△14,088
行政サービス活動支出	1,787,791	1,624,505	1,744,727	120,223
行政サービス活動収支差額	△1,019,357	△1,165,016	△1,299,326	△134,310
投資活動収入	72,050	89,000	124,001	35,001
投資活動支出	595,037	600,744	986,003	385,259
投資活動収支差額	△522,987	△511,744	△862,002	△350,258
財務活動収入	84,900	328,300	480,600	152,300
財務活動支出	428,768	472,770	481,866	9,096
財務活動収支差額	△343,868	△144,470	△1,266	143,204
収支差額 合計	△1,886,213	△1,821,230	△2,162,594	△341,364
一般財源充当額	1,886,213	1,821,433	2,162,594	341,161
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

人にかかるコストの内訳

	給与関係費等(千円)	うち時間外手当等(千円)	月平均従事人数(人)
常勤・再任用	484,033	16,340	56.40
会計年度任用等	38,105	-	-
特別職非常勤	-	-	-
合計	522,138	-	-

分析指標

分析指標	年度	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差 B-A
施設老朽化比率		60.2	61.0	62.5	1.5
施設維持補修費比率		0.3	0.2	0.3	0.1
経常費用対公共資産比率		3.3	3.0	3.5	0.5
徴収不能引当率		-	-	-	-
受益者負担比率		8.5	9.1	7.5	△1.6
一般財源充当比率		67.1	67.5	67.3	△0.2